



# ネットワークたより

No.71

関東建築ネットワーク  
2022年10月15日 第71号  
編集責任者 染谷 等  
千葉県船橋市小室町901-C-19-401  
TEL 0120-800-155  
FAX 047-460-9039

ホームページ 関東建築ネットワーク 検索

このたび、しんぶん赤旗日刊紙の「くらし家庭欄」に、私共の執筆したエッセーが5回にわたって掲載されました。関東建築ネットワークの住まいづくりの一端を発表する機会を得ることが出来ました。つたない文章ですが、ここに転載いたしますのでご覧ください。ご意見・ご批判をお寄せいただければ幸いです。

## しんぶん赤旗日刊紙に掲載 特集! やってよかった 家づくり



秋の山

### 金曜エッセー① 7月1日掲載

#### まことさんに学ぶ建築術

日本の女性建築家の草分け的存在の、奥村まことさんが、85歳で亡くられて6年半がたちます。まことさんから多くの事を学びました。その「住まいづくり」を紹介いたします。



大工さん手作りの流し台。シンクは町工場で作。調理しながら出窓から外が見えるのが良い

まことさんの仕事は、住む人の話を聞き、希望を引き出すことを第一にしています。Aさんの新築では、高校生の娘さんの為にベッドの脇に好きな彼氏の写真を

性をとらえています。Bさんの新築では、溪流釣りが好きなご夫婦が谷川で拾った小石を、玄関土間に敷き込みました。C

気密・高断熱にはあまり関心がありません。「家をシートで包み目張りをするなんてとんでもない家が呼吸出来ない」が持論でした。

庶民の家は、限られた予算ですから見栄に予算はかけません。玄関ドアは質素だし、玄関の土間はモルタル仕上げが多く、豪華な設備機器は避け、使い勝手の良さ、手作りの良さを大切にします。

まことさんは、家は買うものでなく造るものだから、建主、設計者、施工の三者の協力がなければ、良い家は出来ないとい

さんのお店では店内の壁を店主がローラーで塗れるよう助言もしました。

台所の流しや食器棚は大ききんの手作りが大半で、浴室もユニバスはあまり使わず在来のものでなく造るものだから、建主、設計者、施工の三者の協力がなければ、良い家は出来ないとい

私達は「家は買うものではなく造るもの」と言っています。地域の家づくりは地域の業者が担うべきで、地域の経済循環に役立つと考えています。大手メーカーの住宅は規格生産で原価削減を図り、展示場や大きな宣伝経費で誘うのに対し、

で、住みよい家づくりを目指し活動しています。結成30年です。(事務局 初山晃一)

### 金曜エッセー② 7月8日掲載

#### 設計者の役割

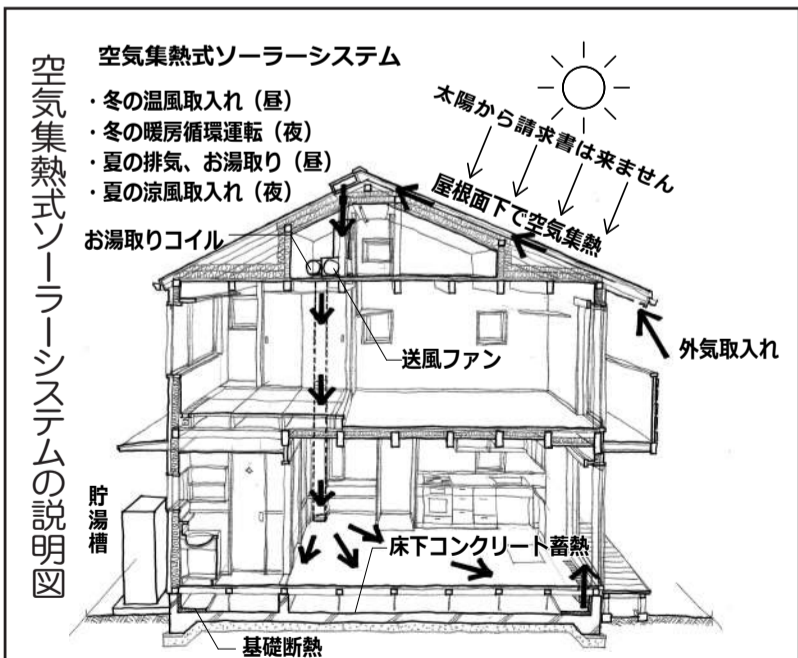
先週の本欄で奥村まことさんの豊かな建築術を紹介しました。今回からは私達関東建築ネットワークの設計者が、自分たちの取り組みをお話しします。

ハウスメーカーやマンションの宣伝があふれ、住宅という商品の売り込みが盛んです。住まいは家族を育て、個人の生きる力を再生産する場ですから、設計者としてはお客さまの暮らしをくみ取り、自分らしい暮らしづくりが喜びになるような住まい作りを目指しています。それが権威に頼らな

私達は現場ごとに設計力と施工力を合体させて住まいを作ります。設計者は、計画立案、見積りチェック、現場監理に注力し、施工者は施工品質に責任を持つ。設計と施工は別契約ですが、協力関係を保つために工事費の見積り競争はお断りしているのです。

さて、燃費の低い省エネ住宅のために、空気集熱式ソーラーシステムを採用したお客さまの声を紹介します。

「家で使用している冷暖房機器の使用が大きい必要ありません。夏は変わりません。冬は晴れた日には家全体が暖かく、くるので、夜通し冷房を必要ありません。夏は



このシステムは高性能ハイテク設備ではないせい行政の省エネ補助金の対象に入らないケースが多く改善が求められます(甲田建築事務所 甲田 直己) 裏面へ続く



### 公開講座と住宅相談のご案内

日時 10月22日(土) 23日(日)  
午前10時〜午後4時30分  
会場 全国教育文化会館  
エデュカス東京五階  
内容 無料住宅相談(終日開催)  
講座 22日23日両日午後時  
それぞれ3講座開催します。  
詳しくはホームページを  
展示 健康建材、ネットワークで建てた住宅写真  
入場、相談は一切無料です  
連絡先 0120-800-155  
(事務局)

金曜エッセー③ 7月15日掲載

住み続け住み継いでいく

家づくりをする上では、敷地環境や建物の構造仕様、さらに予算などさまざまな制約があります。そんな中でも、これから5年、10年、20年先々を考えると、家族の変化を見据えて作り上げていくことが重要です。

たとえば、高齢者による住宅の不慮の事故は、床や階段などの転倒・転落が多いといわれています。部屋の出入り口を吊り式の引き戸にすると、床に段差がなくなり、階段には手すりを付け、

「お父さんが建て、私が育った懐かしい家です。から大切にしたい」。娘さんの思いを生かした、親から子へ住み継いでいくための改修工事



方に向かうように窓を配置して、庭の緑など外部とつながるようにすることで、広さとともに季節の移り変わりも感じることができ、

コロナ禍でリモートワークなど在宅勤務が増えたことにより、働くスペースの確保に困った方にはとても有効です。

どんな家でも、手を入れないと急速に建物の劣化は進みます。計画的に建物を点検することで、

あらかじめ家の各所の修繕時期を知ることができ、長期にわたる修繕計画を立て、将来予想される修繕工事の費用などを想定しておくことをお勧めします。

住まいづくりは、住み手のこれから先の生活をイメージしながら造り上げていくことが必要だと思います。そこに、使いやすいするためのちょっとした工夫が、

とした工夫があると、くらしに豊かさが生まれま

金曜エッセー⑤ 7月29日掲載

自然と共生する住まい

私たちは、欲しいものは何でもすぐに安く手に入るのが当たり前で、便利な生活を送るようになってきました。しかし、地球には異変が起きています。

気候変動、温暖化による豪雨や干ばつ。広い海もマイクログプラスチックがあふれ、小魚からクジラに至るまで、胃の中からプラスチックが見つ

く長く住み続けられる家になることでしょうか。(東葛企画設計事務所 野田 耕蔵)

炭素を出します。周りを見ると生活小物から包装容器、工業製品、衣服まで、ほとんどがプラスチック製のものは驚きです。

私たちの家を見ても無垢の木ではなく、合板や集成材が多く使われ、床には化粧合板、クッションフロア、壁や天井はほとんどビニールクロスが貼られています。外壁や

共生する循環可能な自然素材を使う生活、脱プラスチックや省エネ、省資源が求められています。それには近くの山の木々を活用し、長く使い、ごみを減らすことが重要です。

エアコンの普及で空気を温める暖房が一般的になり、気密性能が重要といわれます。しかし、空気を暖めない輻射暖房なら、冬の寒い日でも日なたぼっこで暖かいように、

直接体や物に遠赤外線が作用して、暖かく感じます。体感温度は気温だけでなく、周囲の温度や湿度、風も関係しています。

遠赤外線を利用したオンドルやペチカなどは、蓄熱性能を加味して、昔から寒い地域で用いられてきました。

暑い夏の日差しも、木陰に入れば涼しく感じます。風があればなおさらです。中庭をつくることや、

越屋根(屋根の上に乗せる小さな屋根)を設け、高い位置から排気することも有効です。自然の法則を活用した手法で、機械に頼りすぎない家づくりを行うことが大切です。(DEN設計工房 酒井 行夫)

金曜エッセー④ 7月22日掲載

クリーンエネを住居に

なぜCO2(二酸化炭素)がこれほど問題になるのでしょうか。自然界でCO2は、陸上生態系や海洋に吸収されます。しかし人類は産業革命以降、

便利さを求めて化石燃料をふんだんに使い、これまで蓄積されていた化石燃料をCO2として急激に放出しています。それは化石燃料の枯渇と温室効果ガスを増やす結果となり、地球温暖化の原因の一つとなっています。

これから先を考えると、エネルギーの消費を削減するとともに、自然の力を生かすことが大切です。自然エネルギーを利用し、自然環境を壊さないことが、家づくりに関わる設

計者の責任ではないかと考えます。自然から生み出されるエネルギーは、地域や天候に左右される特徴があるので、うまく利用したくないものではないかと考えます。

クリーンエネルギーの一つである太陽熱を利用したのが空気集熱式ソーラーシステムです。その開発に関わった建築家の奥村昭雄氏から直接いただいた知恵を生かしています。

このシステムは太陽熱をとらえて暖房するもので、地域に左右されず、冬でも太陽が出ていて屋根(太陽熱をとらえる集熱面)に雪が無いことが必須なので、北海道の西



空気集熱式ソーラーシステムの屋根の集熱部 (出典: ネットワークたよりNo.47)

部は厳しいですが、東部は十分利用可能です。寒くても、暖房がいらぬ期間が短い地域では、晴れてさえいれば、冬に限らず十分使えます。雪が残っていても一時

的に暖かい空気を屋根に送って溶かすことで、少しでも早く太陽熱を利用する事ができます。冬の東京は、平均湿度が45%(30%代になる時も)と云われます。室内の仕上げを吸湿性のあるものにした

自然エネルギーを利用するには、総合的に考えることが必要です。それでこそ『未来の世代に、美しい地球を残したいという思い』に沿った家づくりができるのだと思います。

日頃から節電を心がけ、エネルギーを上手に使う工夫をすることも大事なことでないでしょうか。(染谷建築設計事務所 染谷 等)



大きな屋根に覆われた杉板張りの家。すべて国産材。長い庇(ひさし)が杉板の外壁を日差しや風雨から守り、格子棚のグリーンカーテンも日差しや視線を遮る

ちひろさんとまことさん 黒姫山荘の出会い

「いわさきちひろとおくむらまこと・生活と「ごと」展が、盛況のうち九月に終了しました。著名な絵本作家の岩崎ちひろと、女性建築家の草分け的存在の奥村まこととの、仕事や生活ぶりが、たくさんの資料をもとに展示されました。

お二人はどういうきっかけで知り合い、ちひろさんの「黒姫山荘」をまことさんが設計することになったのでしょうか。ちひろさんは練馬区下石神井(現在のちひろ美術館)に居住し、まことさんは同じ区内の中村に居住していたという、同じ区内の住人でした。

ちひろさんが、縁あって長野県北部の黒姫高原に、アトリエを兼ねた山荘を建てる計画がありま

遠赤外線を利用したオンドルやペチカなどは、蓄熱性能を加味して、昔から寒い地域で用いられてきました。暑い夏の日差しも、木陰に入れば涼しく感じます。風があればなおさらです。中庭をつくることや、越屋根(屋根の上に乗せる小さな屋根)を設け、高い位置から排気することも有効です。自然の法則を活用した手法で、機械に頼りすぎない家づくりを行うことが大切です。(DEN設計工房 酒井 行夫)